

## 様式6 別紙

### 事業名 地域子育て支援の質的向上を図るためのネットワークづくり事業

事業主体 名称：NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん

住所：備前市伊部1455

事業実施場所 備前市ふれあい交流拠点「くるみの森」

目的：地域で支え合う子育ての促進を目的に、各地に「地域子育て支援拠点事業」「ももっこステーション」などの整備が進んできたが、ここ数年間の社会状況の変化に対応した支援の質的向上には十分目を向けられていない状況がある。支援者のための学習機会を通じて支援者としての基礎的な力量を再確認し、スキルアップを図るための学びや、支援者同士のつながりの中で成長する機会を提供し、地域子育て支援の向上をめざす。

概要・方法：

○ネットワーク学習会の開催

- ・地域子育て支援拠点等従事者 基礎講座①、②
- ・地域子育て支援拠点等従事者 発展研修

○情報発信

- ・SNSによる情報発信
- ・登録による継続した情報提供

～事業実施内容～

#### ネットワーク学習会

<第1回>

- ① 事業名 地域子育て支援拠点等従事者 基礎講座①
- ② 参加人数 岡山県下の地域子育て支援者 24名
- ③ 日時 令和3年10月8日(金) 13:30～15:30
- ④ 場所 備前市市民センター
- ⑤ 内容 講師：NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん

代表理事 赤迫康代

内容：①地域子育て支援の役割

②子どもの育ちを支えるかかわり



⑥ 活動の成果等 (受講生のアンケート感想より抜粋)

- ・子育て支援拠点の背景や今の子どもの育ちの現状が、グラフなど分かりやすく示されており、改めて必要性和支援の方向性を確認することができた。
- ・グループワークをすることによって、新たな気づきもあり、昔と今との生活を知ることによって、支援の重要性を改めて感じた。

- ・今、とても関心を持っていることだったので、楽しく受講させていただきました。内容もわかりやすく勉強になりました。
- ・子育てを取り巻く環境が変化していく中で、子育て中の親子を支援していく人の力が必要だなと改めて感じました。
- ・日々かかわっている“子どもの育ち”についてのテーマだったことで、グループでも共有しやすかったです。わかりやすい言葉で伝えてくださったので、またこれからも支援を頑張ろう！と力を頂きました。
- ・育児負担が母親に集中していて、そこに子育て支援の必要背があることがよくわかった。それに伴う親子への支援の方向性もわかりやすかった。
- ・日々、変化する中で、変わらないものがある。自分たちが行っている子育て支援には、たくさん仲間がいる。それを感じた講座でした。
- ・グループワークでいろいろな話が聞けて、参考になる内容が多かった。話を聞くことで、自分だけが悩んでいるのではないことがわかった。
- ・多様な場所から子育て支援に関わっている方が、こんなに集まり学べる講座が素晴らしいと思います。
- ・お話の中で出てきた、お母さんの「育児不安感」を聞いてみる、“今（現代）”の環境を踏まえ必要な情報をお母さん方に発信していくこと、その仕組みを考えていくこともしていきたいと思った。グループワークでいろいろお話をお聞きできたので、勉強になった。やってみたいことがたくさんありました。
- ・現在の子ども達が、子どもらしく育つ環境が保障されにくい状況であることを、表やグラフなどからより実感しました。周りの大人たちへの働きかけに対して、自分のひろばも含めて話あうことで、客観的に考える時間を持つことができ、興味深かったです。
- ・最後、今、目の前にいる親子さんに本当に支援ができているか、という言葉に、改めて日々自分の接し方や言葉、いろいろなことを考え直すきっかけになったと思います。今日学んだことを大切にしていきたいです。
- ・お母さんだけに責任を押し付けず、その環境、話をよく聞いて、社会全体でサポートしていくことを改めて頭において、自分にできることを考えていきたいと思います。

#### <第2回>

- ① 事業名 地域子育て支援拠点等従事者 基礎講座②
- ② 参加人数 岡山下の地域子育て支援者 19名
- ③ 日時 令和3年11月12日（金）13：30～15：30
- ④ 場所 備前市市民センター
- ⑤ 内容 講師：NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん

代表理事 赤迫康代

内容：①親の育ちを支える環境づくり

②地域で支えあう子育て



⑥ 活動の成果等 (受講生のアンケート感想より抜粋)

- ・スタッフ同士で日々ふりかえり、支援の質を高めていこうと思う。同じ立場の方と話し合うことで学びや気づきがあり良かった。2回の講座を受けて大変勉強になりました。
- ・本日話し合った内容や気づきを他のスタッフとも共有し、チームワークで子育て支援を行なっていきたいです。
- ・人と人として大切にすべきことを心にとめて、日々丁寧に親子の方へ関わりたいと思った。その中でこちらが強制するのではなく、自ら気づくことが出来るようなサポートが出来るように心がけたいです。
- ・支援の質をこれからも意識し高めていく中で、ふりかえりをもっと大切にしたり、コミュニケーションをしっかりとりながらやっていきたい。お母さん達の力をもっと引き出していきたいです。帰って他のスタッフとも共有していきます。
- ・親の成長「養護性」について、改めて考えることができ、とてもよかったです。親の育ち支援では、その人に合った支援が必要で、それを極めながらもスタッフの力量が試されると感じた。基礎講座…改めて学べてよかったです。
- ・前回の「子どもの育ち」を考えてからの今日の「親の育ち」を考えたことで、より深く学ぶことが出来ました。普段、意識できていなかったことも、改めて言葉と文字で伝えていただけたことで、自分の気づきにつながりました。
- ・資料に沿って、体験談も入れながら、身に浮かぶように話してくださったのがわかりやすかったです。
- ・いろいろな方たちの話を聞かせてもらって、実践したいなと思うことがたくさんあった。
- ・講師のお話と合わせて、グループワークで深められたり、楽しく話しながら他の拠点の取り組みが知れたこともよかったです。今後取り組んでみたいことも、具体的に聞けてよかったです。
- ・同じ思いの人の集まりはとても大切だと感じます。現在の拠点がある幸せを大切に、もっとたくさんの居場所ができることを願っています。
- ・地域のつながりを活かして連携し、いろいろな親子を今以上につなげていきたいと思いました。

<第3回>

- ① 事業名 地域子育て支援拠点等従事者 発展研修 (オンラインによる研修)
- ② 参加人数 岡山下の地域子育て支援者 28名
- ③ 日時 令和3年11月19日(金) 13:30~15:30
- ④ 場所 リフレセンターびぜん
- ⑤ 内容 講師:母と子の健康相談室にしお 助産師 西尾敏子さん  
グローアップルームぱる 助産師 塩津朋子さん  
内容:『子育て家庭のニーズをもとに妊娠中からの切れ目ない支援を考える  
～産前・産後のサポート体制について学び合う～』



## ⑥ 活動の成果等 (受講生のアンケート感想より抜粋)

- ・子育て支援に関わる様々な立場の方が、それぞれに持っている情報を共有し合うことの大切さ。1人1人のお話を丁寧に聞き取ること、1人1人違うことを忘れない。
- ・講師お二人の話、どちらも興味深く、とても感動的だった。もっと聴きたかった。改めて妊娠中からの継続的なケアが必要だということを痛感した。
- ・(助産師として) それぞれの地域での支援内容をもっと知らなければ…と思った。
- ・保健師として切れ目のない支援は非常に大切だと思っています。グループワークを通して、コロナ禍で出会いの場が少ないことが課題としてあがって、今後、行政として、妊婦同士がかかわる場、社会資源の早めの提供について考えていきたい。
- ・グループワークでの具体的な事例案。みんな同じように悩み、どのような支援が必要かを考えているんだと感じた。
- ・出産⇒全治3か月！お母さんの身体、心も大切。
- ・社会みんなで支えていくということの大切さ。また、当事者でないとわからない困難さをどれだけ支えられるか、足りない制度を見つけ出さなくてはいけないと強く感じた。

## 情報発信

### ○SNSによる情報発信

目的： HPやFacebookなどを活用して子育て支援に役立つ内容を発信し支援の向上を図る

対象者：子育てや、子育て支援に関心のある方

実施時期：10月3日に、ひこうせん「くるみの森」Facebookにて告知

実施内容：「くるみの森」Facebookにて11月19日の子育て支援者研修「発展研修」の告知をしDMでチラシ配布できなかった方々にも子育て支援に役立つ内容を広めていった。

### ○メール登録による継続した情報提供

目的：支援者の方々が継続的に子育て支援に関する学習への意欲を高め、長期的に学び続けられるシステムを構築する

対象者：県内の子育て支援関係の方々

登録者数：基礎講座受講登録者：32名 (今年度11名)

発展研修受講登録者：7名 (今年度4名)

実施時期：R3年9月17日(金)、11月19日(金)に配信

実施内容：学習会に参加した方やその他子育て支援に関心のある方などを対象にメール登録制度を作り、子育て支援の研修案内や地域子育て支援に関する情報を配信した。

～事業を終えて～

### ○事業実施による効果

「基礎講座」は、予定していた開催時期に緊急事態宣言が発令され、開催日変更を余儀なくされた状況があったにもかかわらず、昨年度定員を超えて受講が叶わなかった方々やこれから活動を立ち上げる団体や新しくスタッフとして任務に就く方々など含め24名が申込みされた。支援者の方が、地域子育て支援の役割の重要性を確認したり、支援者同士の交流を図りながら学びあう機会を通して、より豊かな支援をめざしたり、日頃実践している支援を見直すと共に、支援者個々の基礎的な知識を再確認しスキルアップすることが出来た。

「基礎講座」においては昨年同様、2回コースとし、社会状況の変化に対応した支援の質的向上に着

目して、支援者としての視点を再確認する内容で提供した。

子育て環境が変化していく中で、子育て中の親子を支えていくことの重要性を改めて感じたり、子育て支援の場は「人の育つ場所」であり、子どもの成長・親の成長両方を支えるために支援者として何ができるかを考える機会となった。

ワークショップを通じて、支援者それぞれの市町村の条件の中で何ができるかを話し合い、親子の幸せを願う支援者ネットワーク構築の必要性を確認しあう機会になった。

「発展研修」では、事前に妊娠期から産後の生活に母親達が求める支援についてアンケート調査を行い、その内容をもとに研修を組み立てた。

まずは、助産師として産前産後のサポートに携わっておられる講師お二方の講話を頂いた。妊娠中から産後にかけて母親の身体がどのように変化していくのか、父親が産後に赤ちゃんにかかわることによって愛情が深まり夫婦の子育てが成立しやすくなること、乳幼児期からの性教育の大切さなど、助産師ならではの知識をお話し頂き、子育て支援者としての学びを深めることができた。

また、グループワークでは助産師・保健師・看護師・子育て支援者・行政など多様な分野からの参加があったことにより、連携による支援について具体的に考えることが出来た。

◎「基礎研修」に2回通して参加された方19名の方に修了証書を発行。

(昨年からの累計36名)

◎「発展研修」は28名の方に受講証明書を発行。

◎SNS(フェイスブック)での情報発信によって、子育て支援に関心のある方はもとより、学ぶための情報が得にくかった支援者への情報提供になった。

◎受講生の方へメール登録を提案し、日常的に学びの情報提供ができるしくみを構築。昨年度の登録と合わせて、現在の登録者数39名となった。

#### ○今後の課題・展開

県内各地からの参加があり、支援者同士がつながることでエンパワーメントしていく様子を感じられたが、参加者によって支援の経験年数などに幅があるので、それらをふまえて講義の内容とグループワークの進め方を工夫していきたい。

#### ○まとめ

子育て支援に熱意をもって頑張っている方々が参加して下さったことにより、すべての時間を通してとても温かい雰囲気でも学び合うことができた。参加者のみなさんはよりよい支援を実施したいという思いがある中で、子育て支援の方向性や具体的な支援方法を学ぶ場がないことへのジレンマを感じておられることも伝わってきた。当事業を通して、質の高い支援に向けて学ぶと同時に、支援者同士が必要に応じてつながることのできる緩やかなネットワークが構築されるよう、今後も継続して積み重ねていくことが必要である。